卒業論文

# ワークライフバランス形成の要因分析

## ―1 人の金融マンを事例として―

平成 18 年度入学
九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専攻

平成 22 年 1 月提出

**要約**

本論文は、どのような要因が人々のワークライフバランス形成を阻害、促進しているのかを明らかにすることを目的としている。調査では、当時の心境や経験の聞き取りを行うことより、1 人の金融マンの入社から退職までの経緯を振り返っていった。この方法をとることで、データからだけでは見えてこない、人々がワークライフバランスを形成する上で真に重要な要因は何かを探ることが出来ると考えている。

まず第１章では、そもそもワークライフバランスとは何か、なぜこういった概念が普及していったのかという歴史的な背景についての記述を行った。ワークライフバランスはアメリカが起源であり、日本では元々少子化を懸念しての「福祉的」な取り組みとして導入された。しかし現在では社員の能力を引き出すことや、有能な社員の採用といった経営戦略としての」取り組みに変化している。また、ワークライフバランスと類似した概念の整理も行った。

第２章では、ワークライフバランスに見識の深い大沢の著書を中心に、現在議論されているワークライフバランス形成を阻害する要因を紹介している。本論では「拘束性」「長時間労働」「ストレス社会」の３つを挙げ、それぞれの問題点についての記述を行っている。

第３章では、ワークライフバランス形成の要因を探るべく行った私の調査について述べている。目的や方法、インタビュー対象者の紹介とインタビュー内容を掲載している。

第４章では、前章でのインタビュー内容を踏まえて分析を行った。まず大沢の挙げていた 3 つの阻害要因が、実際の事例ではどのような影響を与えていたのかを検証した結果、どの要因もワークライフバランス形成を阻害するものといえた。また、インタビューから「通勤時間」「単身赴任」「趣味」「周りの人々との関係」という新たな４つの要因を見出し、ワークライフバランス形成の阻害要因、もしくは促進要因であると結論付けた。

第５章では、前章までの振り返りと、分析結果の考察を行っている。退職にまで至ったのは、会社の都合など今回紹介した要因だけでは説明しきれない。しかし少なくとも、退職にまで至らせるほどの葛藤や悩みを生み出す可能性のある要因である。そして、今後誰もが充実した人生を送るには、人々が本当に苦しんでいる問題は何かということを考慮した上での仕組みや制度作りが必要になるという結論で締めくくっている。

―目次―

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

**第１章　ワークライフバランスとは何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・**
2

（１）ワークライフバランスの定義　/2

（２）ワークライフバランスの由来　/3

（３）日本におけるワークライフバランス導入の背景　/4

（４）類似概念の整理　/7

**第２章　ワークライフバランス形成を阻害する要因とは・・・・・・・・・・**
14

（１）「拘束性」　/14

（２）「長時間労働」　/17

（３）「ストレス社会」　/19

**第３章　１人の金融マンのワークライフバランス事例・・・・・・・・・・・**
22

第１節　調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

（１）調査目的　/22

（２）調査方法　/22

（３）インタビュー対象者の紹介　/22

第２節　インタビュー結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

（１）２０代での仕事と家庭　/25

（１）―１．仕事　/25

（１）―２．家庭　/26

（２）３０代での仕事と家庭　/26

（２）―１．仕事　/26

（２）―２．家庭　/27

（３）４０代での仕事と家庭　/29

（３）―１．仕事　/29
（３）―２．家庭　/32

**第４章　ワークライフバランス形成の要因分析**・・・・・・・・・・・・・・・・35
第１節　大沢モデルとの比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
（１）「拘束性」　/35
（２）「長時間労働」　/36
（３）「ストレス社会」　/37

第２節　ワークライフバランス形成における新たな要因・・・・・・・・・・・・・・・38
（１）ワークライフバランス形成の阻害要因　/38
（１）―１．「通勤時間」　/38
（１）―２．「単身赴任」　/39

（２）ワークライフバランス形成の促進要因　/43
（２）―１．「趣味」　/43
（２）―２．「周りの人々との関係」　/44

**第５章　まとめと考察**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52